



心の蜜で タッグを組む

心
あ
つ
た
か
ニ
ュ
ー
ス

NMCAA
NO3

NHKビジネス特集で、「社だけで考えない」コロナ禍克服するボブスレー方式が目にとまりました。オリンピック用のボブスレーのそりを開発したプロジェクトのことで、その精神のこともあるようです。切削、溶接、板金、研磨…。大田区の熟練工たちの技能を結集して、オリンピックレベルのそりをつくりあげた。決して1社だけで考えず、壁にぶつかれば互いに助けあい難題を克服してきた。

コロナショックという経験のない壁が立ち上がるが、下町ボブスレー式の共助が力を発揮しているのだと言う。新車を開発する際に必要となる部品などを作っている「昭和製作所」。舟久保利和社長は「一つ一つは小さい会社だが、集まった時にはすごい力を発揮する」ということを下町ボブスレーでも体験、体現してきた。他人ごととは1つもない。他社のマイナスを少なくすることができれば

いいし、それに対して少しでも協力できればと考えている」と。蜜を避けるのは肉体で、心は蜜であることが、とても大切な世の中なのだと思います。

協力で作る

町工場の素敵な取り組みが、東京新聞Webにありましたので、ご紹介します。足踏み式消毒液ポトル江戸川区の四社が手を組んで、足踏み式の消毒液スタンドを共同開発した。足元のペダルを踏めば、ポトルに触れずに手や指を消毒できる。普段からつながりがある四社は、客がつぶやいた「ポトルに触れたくない」という言葉をヒントに製作を始めた。レーザー加工技術を持つ「帛松鋼材」が材料の鉄を切断して次の工程にパス。曲げ加工が得意な「王筆（つくし）鋼業」がペダルの踏みやすさを追求し、水平に対してマイナス一〇度の角度に成形した。鉄鋼業の「ヨコヤマ工業」が溶接を担い、印刷を主とする「碧戸ネームプレート工業」が組み立てと塗装をして完成

させた。四社は「地元業者として区民の役に立ちたかった」と十台を区に寄贈、区役所や区民施設で活用されている。発案した岩戸ネームプレート北村稔さん（45）は「手を組んだからこそ実現できた。工場数が二十三区で最多の（大田区に負けず、メードイン江戸川をPRしていきたい」と意欲をみせた。

編集後記

このお話を聞いて、実はこっちがすごく元気になつてきました。協力して乗り越えるということ、なにか血がさわぐということ、奮い立たせる力があるようです。もともと人に備わっている力、きつと昔からこの力を使って困難を乗り越えていたことを確信させられました。